

日本における仏教の社会参加 歴史的・現代的視点

ワツツ・ジョナサン

国際仏教交流センター

「Engaged Buddhism」：語源の問題

- ❖ 和訳の問題：「社会参加仏教」、「臨床仏教」「公益仏教」、「市民社会仏教」、台灣：「入世仏教」
- ❖ 國際標準：「エンゲイジド・ブッティズム」
- ❖ 「Buddh-ism」=仏教主義？

欧米人や英語を話す人々にとって、仏教は当初、宗教ではなく哲学として捉えられていた。

- ❖ 「Engaged」=フランス語 *engagé*=積極的
 1. 仏教に対する典型的なイメージは、山中で瞑想する僧侶
 2. キリスト教、ユダヤ教、イスラム教と比べると仏教の社会正義観は弱い
 3. 様々な社会問題に積極的対応するの佛教者はSocially Engaged Buddhistである。

*The Buddha's Teachings on
Social and
Communal Harmony*



An Anthology of Discourses
from the Pāli Canon

*Edited and introduced by
Bhikkhu Bodhi*

FOREWORD BY THE DALAI LAMA

エンゲイジド・ブッダズムとして 原始仏教と釈尊の言葉から

- ❖ チヤッカヴァッティ・スッタ (D. iii. 58-79) 道徳的な王 (ダマラージヤ) の指針と倫理
- ❖ マハーパリニバーナ・スッタ (D. ii. 74) 共和制会議のガイドラインであり、僧院のサンガのモデルである。
- ❖ シャキアン共和国とコリヤン共和国のロヒニ川紛争とブッダの和解活動 (J. v. 412-14)

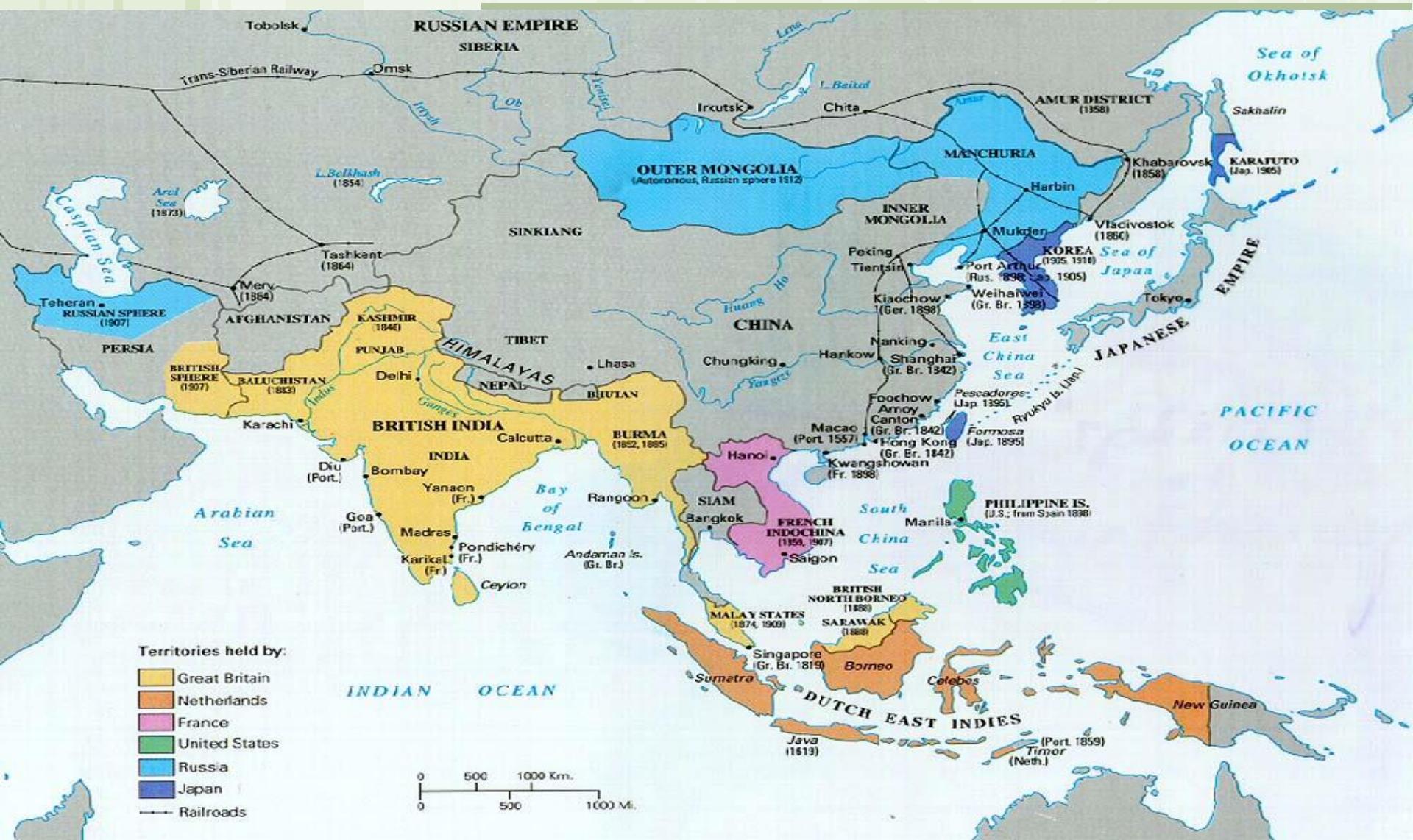
日本国内の歴史的事例

- ❖ 聖徳太子が十七条憲法に仏教の概念を盛り込み
- ❖ 四天王寺に社会福祉施設を設立した
- ❖ 行基 (668-749) 、叡尊 (1201-1290) 、忍性 (1217-1303) 、社会的弱者のために
- ❖ 鎌倉仏教の四大革命家である、法然、親鸞、道元、日蓮は、今日でも仏教の社会活動に大きなインスピレーションを与えていている。

戰前期：
反殖民地運動
人間的と社會主義佛教運動
1890年代→1949

エンゲイジド・ブッディズム

19世紀後半から20世紀初頭にかけての西洋の植民地化と近代化の影響と混乱に対応して始まった運動として定義されてきた



上座部仏教：僧侶と在家活動



スリランカ
アナガリーか・ダッマパーラ (1864-1933)
在家的現代的新佛教運動
大菩提会・Mahabodhi Societyの創立者

ビルマ：
オッタマ師 1889 ・ ウイサラ師 1929
インドで社会主義とガンジー主義を学ぶ



中国：人間的と社会主義仏教運動



Monk Tai Hsu (Tai Hsu Fa Shi)

大虛法師

- ❖ 太虛大師(1890-1947)
人間佛教
レンジエン・フォジアウ
- ❖ ベトナムにも影響を与えた
- ❖ 印順導師(1906-2005)
戦後台湾へ再生された

インド 差別（民族・宗教・文化・経済）

不可触民の公民権運動 1920年代、新佛教運動 1950年代→ 現在

「ディクシャ・ブーミ」
ナーグプル市のアンベードカル
の改宗地

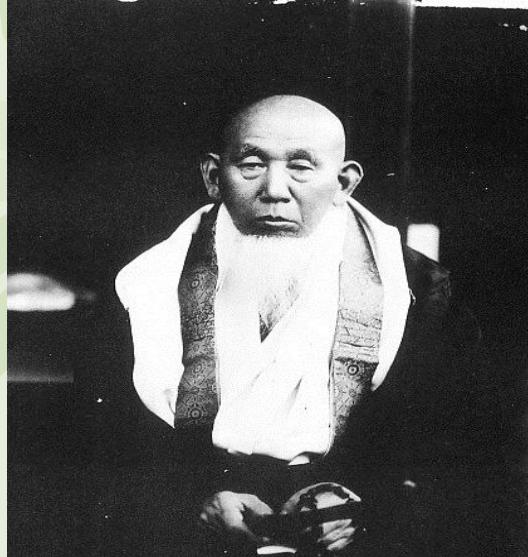


B.R.アンベードカル
インド憲法の草案作成者



日本：佛教的自由主義 リベラルイズム

島地黙雷
(1838–1911)
浄土真宗
本願寺派
僧侶



渡辺海旭
(1872–1933)
浄土宗
僧侶



- ❖ 「佛教啓蒙活動」
明治初期 (1880s)
- ❖ 「新佛教運動」
明治後期 (1890–1900s)
- ❖ 西洋の自由主義的・
科学的思想を佛教と結
びつけ、佛教の近代的
特質と近代国家への適
合性を示そうとした

日本・仏教的社会主义



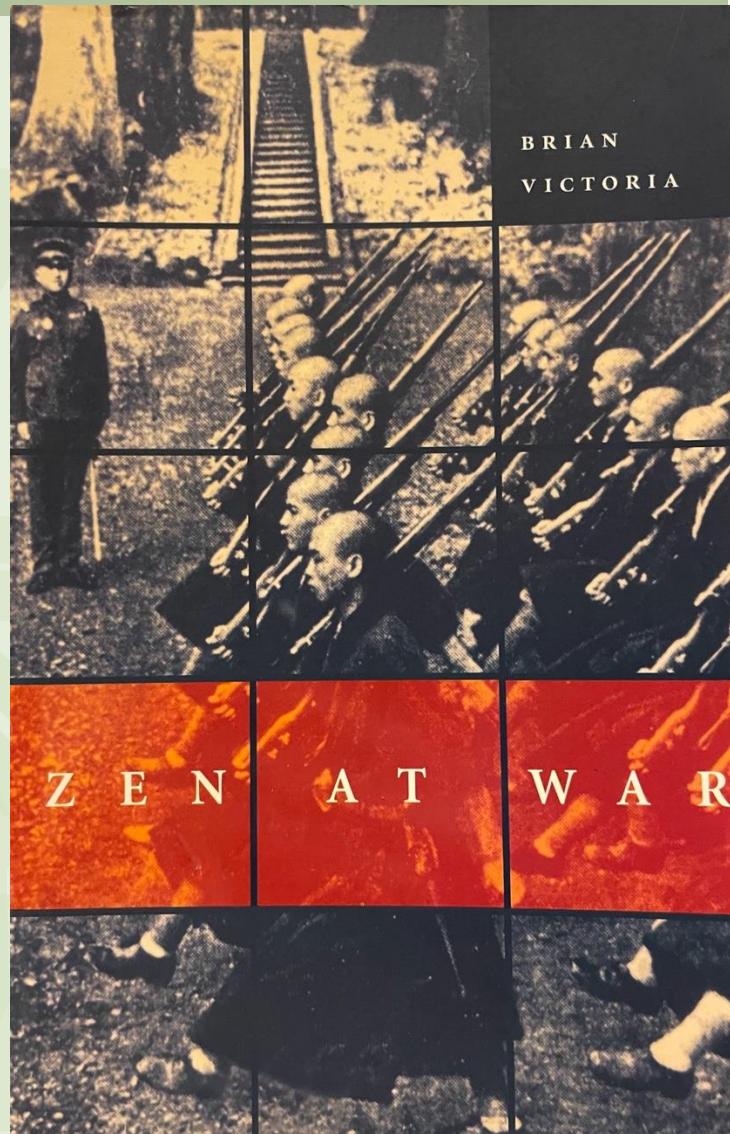
内山愚童

丸木位里の
「大逆事件」

- ❖ 大正時代、アジアで最も早くマルクス主義・社会主义との融合を模索した佛教者
- ❖ 内山愚童 (1874-1911) 曹洞宗僧侶、「無政府共産革命」の思想
- ❖ 妹尾義郎 (1889-1961) 日蓮宗僧侶、「大衆的佛教」の思想
- ❖ 高木顕明(1864-1914) 浄土真宗大谷派僧侶、反帝国主義、国際平和を進んでいる

結論：歴史を忘れてはいけない

- ❖ 戦争責任の影から日本と外国でこれらの人物はほとんど知られておらず。
- ❖ 知られている人物は、戦争を支持したというセンセーショナルな記述に由来する。
- ❖ この植民地時代後期のアジアのどの国の仏教者よりも、ダイナミックで複雑な社会思想の輪郭を曖昧にしている。





戰後期： 民主化運動・平和運動

東南アジア・仏教的社会主义



❖ ビルマ

ウ・ヌー（首相 3x 1948-1962）
限定的な仏教社会主义政策

❖ タイ

プターラット師（1906-1993）
Dhammic Socialism 仏法的社会主义と
ベトナム戦争時代に暴力的共産主義
の違いを明言した

チベットと中国における非暴力抵抗と 政治化された仏教 1959 →



毛沢東（中央）ダライ・ラマ法王（右）

ベトナム戦争 1960年代

暴力 vs. 非暴力

ティイク・ナット・ハン



米国 Buddhist Peace Fellowship 1978 → 現在



カンボジア内戦 1980-90年代

Dhammayietra・法輪の平和行進
マハゴサナンダ師と日本山妙法寺
庭野平和賞受賞：ゴサナンダ師（1998）



ミャンマー 1988 → 現在

サッフロン革命

2007



アウンサンスー^チ
ノーベル平和賞1991



韓国・北朝鮮問題 1980年代 → 現在

ジュントウ「浄土会」と法輪師
庭野平和賞受賞：法輪師(2020)シワラック先生(2011)



戦後日本の平和活動

❖ 日本の伝統的仏教教団

戦争責任、マイノリティ差別、特に部落差別、そして「葬式仏教」といった複数の問題に取り組んでいたからSocially Engaged Buddhismとして前進することが難しくなった。

❖ 法華経と日蓮系に関連する3つの近代仏教教団

創価学会、立正佼成会、日本山妙法寺

❖ 平和目的：

1. 日本の帝国主義によってもたらされた苦しみを償うこと
2. 核軍縮に取り組むこと
3. 積極的な軍隊を禁じた憲法の9条に謳われているように、戦争を放棄するよう世界を導くこと

結論：日本の代表的な エンゲイジド・ブッディズム？

- ❖ 國際社会や欧米の学者たちの間では、創価学会と立正佼成会と日本山妙法寺は日本の代表的なエンゲイジド・ブッディズムとして描かれている
- ❖ しかし、日本の大衆的な平和運動が学生による暴力で崩壊した後、1970年代から80年代に国際的な平和活動をかけて始まった。
- ❖ 日本山妙法寺：1950年代初頭からの米軍基地に対する市民運動に参加している。

戦後期：仏教的経済学 開発・かいはつ運動

農村・コミュニティー・市民社会・環境等
根源の仏教的SDGs

スリランカ 1960年代 → 現在 サルボダーや・シュラーマダーナ 運動

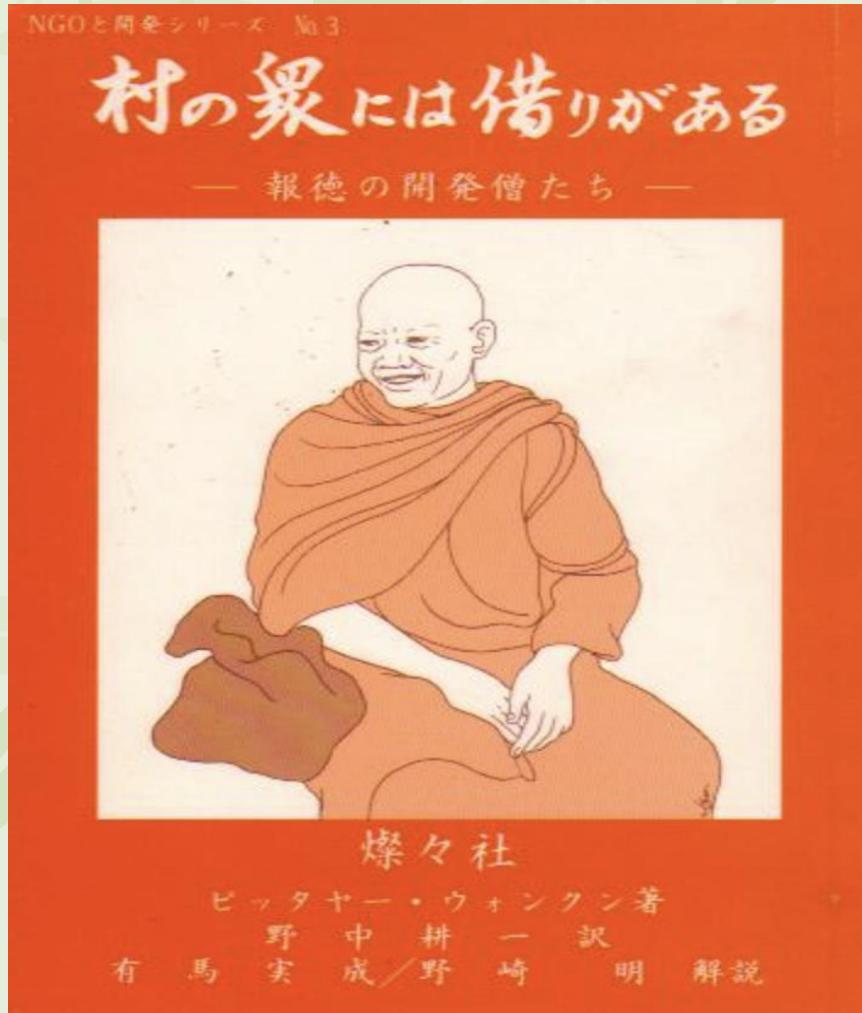
A.T. Ariyaratne 創立者 (1931-2024)
庭野平和賞受賞 (1992)

マイクロクレジット銀行



タイ開発僧侶運動 1970年代 → 現在 市民・マイクロクレジット銀行

ナン老師



パイサン師



ブータン「国民総幸福量」 1979 → 現在

GROSS NATIONAL HAPPINESS

ブータン国王の造語・ブータ研究所が開発・国連が採択・83カ国が記録・デンマーク#1

Idea coined by
Bhutan's 4th
Dragon King, Jig
Sigme Wangchuk

Current version
developed by
Center for
Bhutan Studies

UN Resolution for
GNH as the Chief
Development
Indicator

World Happiness
Report consisting
of 83 countries
published

デンマーク#1
Denmark topped
the list and
Portugal was
lowest

ポルトガルが最低

1975

2010

2012

2013

2013

60 % of Bhutan's pop are farmers

95% of our people have access to clean energy and electricity; Our rivers provide 30,000 MW
of electricity (we use only 2000 MW and exports the rest to India)

80% of our land is forested;

About 90% of the Bhutanese are Buddhist

ブータン人の60%が農民

95%が再生エネルギーと電気を利用できる

国土の80%が森林

国民の90%が仏教徒



仏教NGO運動 1970年代後半から1990年代にかけて

- ❖ 戦争や貧困によって疎外された南部の人々の生活を支援
- ❖ 曹洞宗東南アジア難民救済会議（後にシャンティと改名）の創設者である有馬実成
- ❖ 「その変革こそが病んだ日本の地域社会を『地球市民社会』に立場させ、南と北とが連盟した、新しい価値観に基づく自由で平等な地球社会を作り上げていくのであるまいか。」



大菅俊幸

増補新版

泥の
菩薩

佛教NGOの
開拓者、
有馬実成

結論：社会福祉 vs. 社会変革

- ❖ 東アジアの仏教的国際援助団体：日本の佛教NGO、台湾：佛教慈濟慈善事業基金会、韓国：浄土会
- ❖ 上から目線の施す援助提供、新植民地主義の一形態なのか？
- ❖ 東洋と西洋の両方から北によって押し付けられた不公正な制度と鬪った経験から、南部のSocially Engaged Buddhistは社会変革を重視してきた。
- ❖ 國際平和活動や国際援助活動など、国内の葬式佛教の構造、古風な檀家制度、市民社会における僧侶と寺院の役割を根本的に変えるものではなかった。

日本の「無縁社会」における エンゲイジド・ブッティズム

戦後の高度経済成長期から 「無縁社会」へ

- ◆ 1998年には、さまざまな社会問題によって引き起こされる「病気」の増加とともに、2013年まで自殺率が急増し年間3万人を超え、「無縁社会」が誕生し、さまざまな特徴的な新語が生まれた：
孤独死 & 孤立死
- ◆ 自殺 & 自死
- ◆ 過労死 & 過労自殺
- ◆ イジメ → 不登校: 2012年の11万人から2019年の約18万人へ →
引きこもり: 2019年15～39歳の人口は54万1,000人、40～64歳が
613,000人、全国で約115万人
- ◆ フリーター & NEET
- ◆ 路上生活者・バーホームレス
- ◆ ネットカフェ難民 & サイバーホームレス: 2007年、全国で5,400
人、2020年東京都圏だけで4,000人

現代日本エンゲイジド・ ブッダズムと四聖諦

- ❖ 「無縁社会」は、公共圏に再び参入し、市民とのつながりと信頼を取り戻す新たな機会
- ❖ 四聖諦に基づき、檀家だけでなく一般市民の「苦」という第一の聖諦に出会う機会を提供してきた
- ❖ 第二の聖諦：苦のより深い理解（構造的暴力など）
- ❖ 第三と第四の聖諦：苦を解決するための創造的な方法
- ❖ この20年間、ダイナミックな新しいSocially Engaged Buddhism運動の出現への道を開いてきたのである

慈悲に基づく終末期ケアによる葬式仏教の改革

日本の終末期ケア：ビハーラ運動

1980年代 → 現在

- ❖ 1980年代初頭
- ❖ 田宮正仁師
- ❖ 浄土真宗大谷派
- ❖ 仏教の古い伝統から
- ❖ 「ビハーラ」アジア的仏教的なホスピス
- ❖ ビハーラを「仏教に基づく終末医療とそれを提供する施設....仏教者によって運営され、医療と社会福祉の分野で老・病・死に焦点を当てている」と定義した



巡り、巡って、いのちを巡らせて
—日本の看取りの模索から、アジアの「いのち」の問題へ—

佼成病院緩和ケア ・ビハーラ病棟 (立正佼成会) 2004年に設立



林茂一郎、佼成病院院長、ビハーラ担当医

しん

かん

真觀

第11号

発行日 平成27年1月

立正佼成会附属佼成病院ニュース



ビハーラ運動 あそかビハーラ病院

浄土真宗本願寺派
2008年に京都市近郊に開設した



古代の伝統の復活： 医療センターとしての寺院

真言宗豊山派西明寺と
普門院診療所
栃木県1983年に創立



田中雅博師 (1946-2017)
田中貞雅師
緩和ケア専門家



地域寺院：終末期ケア

- ❖ 2005年、全国に約8万仏教寺院のうち、3万は住職がおらず
- ❖ 地域医療センターとして利用できる可能性がある。

- 1) 精神、宗教、経済、法律に関する相談
- 2) 高齢者、障害者、遺族、虐待を受けた人、アルコール依存症者などの自助グループ
- 3) 医療・福祉施設への臨床宗教師の派
- 4) 外部専門機関への紹介



飯島惠道
緩和ケア看護師
曹洞宗薬王山東昌寺
長野県松本市

地域と寺院繋がり終末期ケア

- ❖ 大河内大博
浄土宗 僧侶と臨床宗教師
- ❖ 2020年初頭、大阪の願生寺
- ❖ 「訪問看護ステーションさつとさんが願生寺」を設立
- ❖ 仏教寺院の将来について、地域社会との関わりを深めることだと考えている：



- 1) 檀家という枠を超えたパブリックな空間を提供する、
- 2) スピリチュアリティを大切にしながら、死という問題について多世代の人々と協力する、
- 3) 地域の高齢者が必要とする資源を派遣するハブとしての役割を果たす、
- 4) 臨床仏教師か臨床宗教師としていのちのケアを提供する

自死防止で自殺文化
を塗り替える

仏教と自殺・自死における差別感

浄土真宗本願寺派によるアンケート調査

- Q. 自死はいのちを粗末にしている行為か？ → はい68.7%
- Q. 自死は仏教の教えに反している行為か？ → はい74.1%
- Q. 死にたいという相談を受けたことがあるか？ → はい15%

*10,281ヶ寺 対象 (2,694通回答) 、浄土真宗本願寺派『宗報』 (2009年9月)

「多くの僧侶が自死に否定的な理解「教義上における否定的な自死理解」が高いほど、門徒（信者）から相談されていない実態も判明」

引用：野呂靖、龍谷大学文学部准教授

日本の自死・自殺に向き合う僧侶の会

2007年創立



追悼法要

築地本願寺



第二目 (2008) 120参加者
第七目(2013) 155 参加者と51 僧侶
第十二目(2018) 208参加者

分かち合い



- 東京・築地本願寺にて、毎月第4木曜日
- 誰にも言えない気持ちを話せる「安心な場所」を提供。
- 2018-19年度には平均38人が参加し、そのうち8人が新規参加者でした。

災害救援、グリーフケア、仏教 チャップレンシー・臨床仏教

寺院や神社を災害時の避難所

岩手県釜石市
仙寿院(日蓮宗)



震災トラウマと支援 臨床宗教師運動2012年から



金田諦應・曹洞宗
カフェ・デ・
モンク



谷山洋三・浄土真宗大谷派
東北大学

震災トラウマとエンゲイジド・ブッディズム 臨床仏教養成講座2013年から



養成担当：大河内大博、神仁、千石真理、吉水岳彦



来・集・滅・道ワークショップ
佛教的社會分析

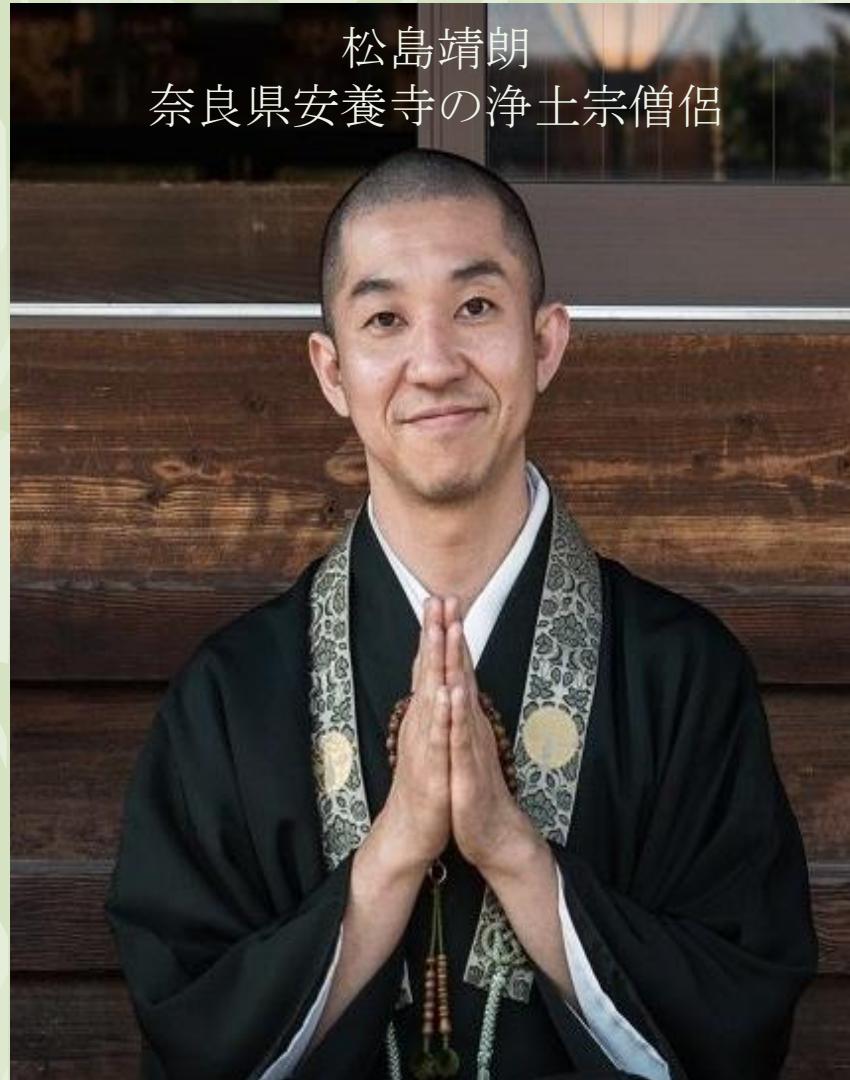
農村の衰退、移住労働者、 貧困、ホームレス問題

路上生活者の支援： ひとさじの会 2009年から



お寺おやつクラブ 貧困と母子家庭の子供たちのために

- 7人に1人の子どもが何らかの経済的困窮状態にある。
- 2022年までに、日本全国で約1800の寺院がお寺おやつクラブの活動に参加するようになった。
- 「市民社会仏教」：無宗教NGO、地方都市政府と提携
- 新しい仏教的社会倫理？日本には人を助けてたいと思いながら、必ずしもその方法を知らない人がたくさんいることを発見した。



松島靖朗
奈良県安養寺の浄土宗僧侶

農村の衰退、移住労働者、貧困、過疎問題



袴田俊英
(曹洞宗)
心といのち
を考える会
創立者



- 2055年までに日本の人口は1億2600万人から9000万人に減少
- 2011年、秋田は平均年収が全国4位の低さ
- 秋田県の自殺率は、1990年代から2000年代にかけて15年連続で全国ワースト1位となり
- 原子力発電所のある地方のコミュニティでは、過疎化が進む地域で他の仕事を見つけるのが難しい地元の労働者も雇用
- 日本の18の商業用原子力発電所で働く約83,000人の労働者のうち、2010年には88%が契約労働者
- 福島第一原発では、その間に働いていた10,303人の労働者のうち89%が契約労働者

原子力災害、環境保護活動 ホリスティックな仏教の 開発・かいはつ

原発問題：

原子力行政を問い合わせ直す宗教者の会 1992年から



全国に800人以上の会員

原発問題：日本山妙法寺 非核戦争から非核エネルギーへ



2013 巡礼と題目を唱える

高速増殖炉「もんじゅ」にて文殊菩薩

1995年運転開始

2014年まで費用1兆円

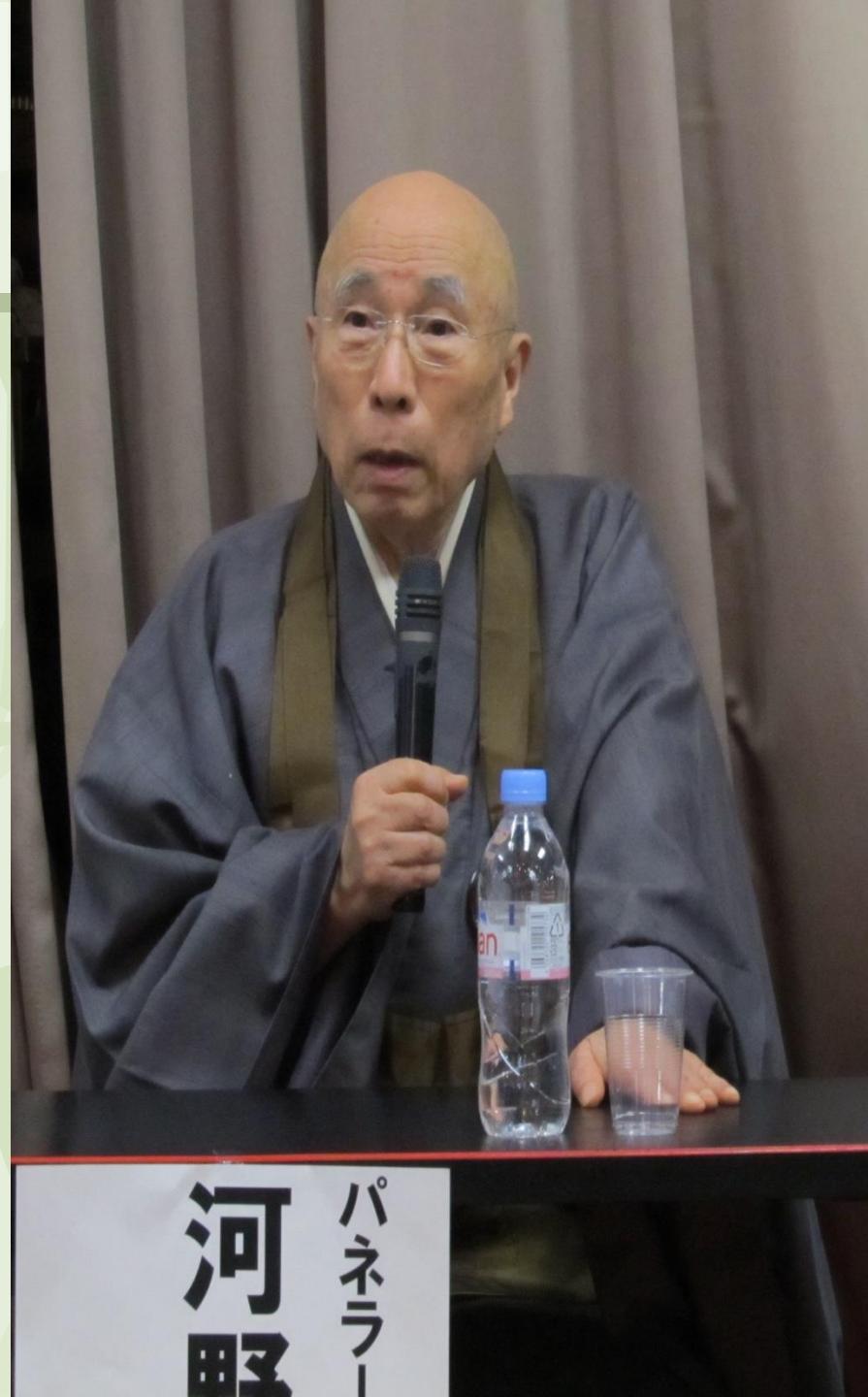
2016年に閉鎖

河野太通老師

全日本仏教会会長 2010-12
臨濟宗妙心寺派管長 2010-14

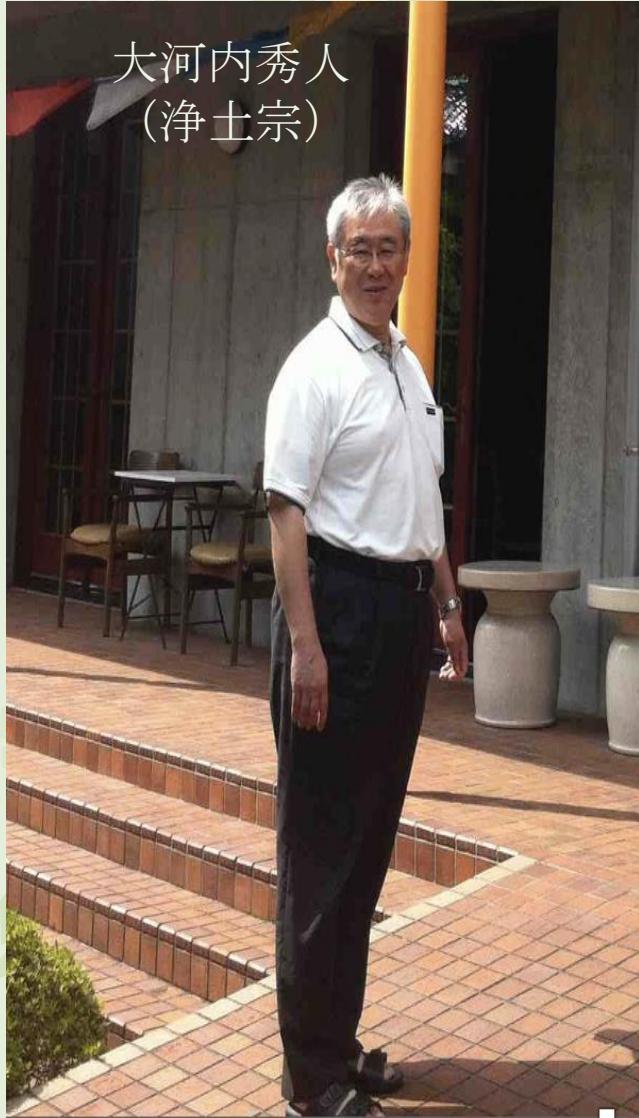
- ❖ 「私は、原発の問題も戦争の問題も同じだと思うのです。
- ❖ 国策だと言っても、みなが良しと思っていたわけでは決してない。一握りだったけれども、勇気をもって警告し反対していた人たちがいた。
- ❖ しかし、それが多くの声にならず、大きな流れを作れずに破局へ向かっていく。その点で原発も戦争には同じ流れがあります。」

引用：「世界」2012年6月



「差別も搾取もない世界 信頼と自立のコミュニティ」

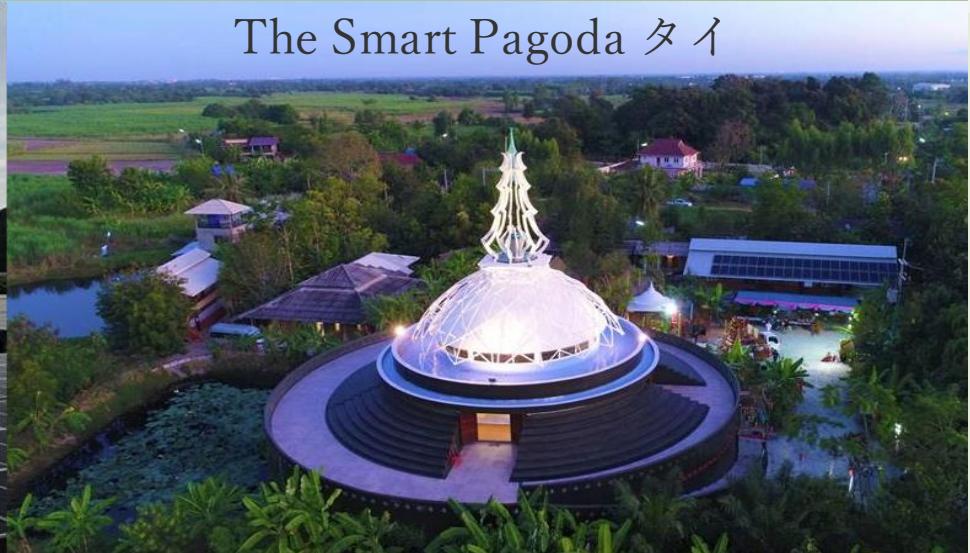
大河内秀人
(浄土宗)



東京都江戸川区
寿光院
市民立第一発電所



仏教的SDGs=開発・かいはつ 国際援助から北・南アジア連帯



結論：統合されたエンゲイジド
・ブッディズム運動で一周する

輪を閉じる：テラエナジー 社会再生のために再生エネルギー を提供する仏教寺院

- ❖ 2010年に浄土真宗西本願寺派の僧侶たちによって設立された「京都自死・自殺相談センター Sotto」
- ❖ 2018年、コミュニティを再構築し、人間の孤立における自殺問題の根源に迫るために、テラエナジーを立ち上げた
- ❖ 利益は社会開発・かいほつのために使われる
- ❖ 子供食堂を作成、自殺・自死防止将来の地域復興計画を支援



おてらのでんき

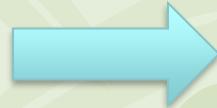
～こころ豊かに、安心なみらいへ～



TERA Energy

結論：いくつかの心強い動き

- ❖ 葬式仏教のイメージとは逆に
- ❖ 僧侶の自分の時間や労力や健康を犠牲にしている
- ❖ 「大乗」戒律や「衆生」のために菩薩の誓願
- ❖ 寺院と宗派と宗教を超え
- ❖ 非宗教的・社会活動家と政府関係者とも協力



- ❖ アジアの他の人々とエンゲイジド・ブッディズム方の間に深い連帯
- ❖ 戦後の平和と和解の実現

残された課題：女性とジェンダー

- ❖ 2023年世界経済フォーラム・グローバル・ジェンダー・ギャップ・レポートは、日本を156カ国中125位と評価
- ❖ 2023年世界銀行レポートは、日本を153カ国中121位と評価
- ❖ 仏教世界で、伝統教団の主要10宗派の宗議会の議員のうち、女性はわずか2%しかない。浄土真宗本願寺派には女性議員はない。

「現代日本における仏教的社會倫理の課題」研究会 #2ジェンダーの視点で語る仏教者による社会実践

パネリスト



三善恭子（康衣）

公益財団法人
世界宗教者平和会議
日本委員会総務部長

2006年立正佼成会に入職、2009年から世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会に勤務し、2020年から総務部長を務める。WCRP日本委員会では女性部会や法人運営を担当し、国内外の諸宗教間プログラムに携わる。2012年、英国バーンガム大学で「宗教間対話組織と国連の協力」を研究し修士号取得。2022年、上智大学実践宗教学研究科で「宗教間対話組織におけるジェンダー主流化」の研究で修士号を取得し、現在、同研究科博士後期課程に在籍。研究テーマは、宗教間対話の公共的役割とジェンダー視点導入の必要性について。認定臨床宗教教師の資格を持ち、関東臨床宗教教師会事務局長も務める。

パネリスト



枝木美香

認定NPO法人アーユ
ス仏教国際協力ネットワーク事務局長

島根県松江市生まれ。1996年からタイにおいて、HIV / AIDSの啓発活動や陽性者の自助グループ支援に携わり、1998年に帰国してアーユス仏教国際協力ネットワークに入職。以来、仏教者によるNGOの魅力にとりつかれつつ、限界をいかに乗りこえられるのか、日々模索中。女性と仏教・関東ネットワークの自称メンバー。INEBにも時々参加。

パネリスト



ラングナー寺本・
バッティーナ清美

浄土真宗本願寺派
極楽寺衆徒、建築家

1965年ドイツ、ケルン生まれ。1988年來日。
大学：1989～91年、京都大学建築学科と龍谷大学仏教学の研究生。1995年アーヘン工科大学建築学科大学院修了。現在京都女子大学の非常勤講師。
建築デザイン：1996～2002年関西の建築事務所に就職。2002年から非常勤講師とARCHITEKTURAEUME Design & Consulting Office所長。
2017年～現在 本願寺事務推進会議委員。
仏教：2008年得道。大阪教区西成組極楽寺の衆徒、坊守。2018浄土真宗にしなり「のの」の会設立、花祭り子供会、国際文化交流。

コメンテーター



島崎 進
東京大学名誉教授
龍谷大学客員教授

1948年東京生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程・単位取得退学。東京大学大学院人文社会系研究科・教授、上智大学グリーフケア研究所所長、現在はNPO東京自由大学学長。専門は近代日本宗教史、宗教学理論、死生学、生命倫理。著書に「日本人の死生観を読む」「ともに悲嘆を生きる」(ともに朝日新聞出版)、「いのちを“つくって、もいいですか?』『宗教を物語でほどく』『なぜ「救い」を求めるのか』(ともにNHK出版)、「グリーフケアの時代」(共著、弘文堂)、「宗教学の名著30』、「神聖天皇のゆくえ」、「新宗教を問う」(ともに筑摩書房)、「教養としての神道」(東洋経済新報社)など。

龍谷大学2024年5月17日



アンチャリー・クルターチ
INEB平和のためのネットワーク
『積極的平和の実践：ジェンダー平等と社会的包摶の行動』



仏教的フェミニズム

- ❖ タイの最初の上座部尼僧：ダマナンダ師
2003年得度された
- ❖ 男女共同参画・ジェンダー・エンパワーメント
活動者：オイポーン・グアンゲイアウ



- ❖ 昭慧(チャオフェイ)法師
庭野平和賞受賞：2021年
台湾の同性結婚運動



日本のLGBTQ+サンガ



浄土宗僧侶とメイクアップアーティスト：西村宏堂



jneb.net

Japan Network of Engaged Buddhists (JNEB)

ようこそ!

Hosted by the International Buddhist Exchange Center (IBEC) @ Kodosan

共催：国際仏教交流センター@孝道教団

「現代日本における仏教的社會倫理の課題」研究会 #1

5月15日19:00-21:00 新聞報告が追加されました

New Publication! *Engaged Buddhism in Japan*: Two Volume Series (April 2023)

Zoomcast/Podcast Premiering April 15, 2022: Meetings with Remarkable Buddhists: Socially Engaged Buddhism in Japan in the 21st Century

Engagements 実践活動

Psycho-Spiritual Care & Buddhist Chaplaincy, Suicide Prevention, and End-of-Life Care

自殺・自死防止

臨床仏教師養成

The Buddhist Path from Nuclear Power to Clean Energy

脱原発・再生エネルギー



日本語の資料、活動・イベント情報など

ミャンマー民主化回復を求める市民運動への支援



Engaged Buddhism in Japan

VOLUME 1

An Engaged Buddhist History of Japan
from the Ancient to the Modern

Jonathan S. Watts

Engaged Buddhism in Japan

VOLUME II

A New
Socially Engaged Buddhism
in 21st Century Japan:
From Intimate Care
to Social Ethics

Jonathan S. Watts

VOLUME I

ENGAGED BUDDHISM IN JAPAN

An Engaged Buddhist History of Japan
from the Ancient to the Modern

Jonathan S. Watts

VOLUME II

ENGAGED BUDDHISM IN JAPAN

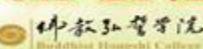
A New Socially Engaged Buddhism
in 21st Century Japan:
From Intimate Care to Social Ethics

Jonathan S. Watts

INEB 国際仏教エンゲイジド・ ブッディスト ネットワーク



The International Network of Engaged Buddhists
The 18th INEB Biennial Conference 2017 in Taiwan



國際入世佛教協會第十八屆雙年會 2017於台灣

青少年と精神的指導者養成

INEB 「若い菩薩」 プログラム
(東南アジアと南アジアの青少年 2002年から)



エンゲイジド・ブッダズム 基本原則

- ❖ 宗派と宗教を越える活動
- ❖ 絶対に非暴力
- ❖ 「公益性」 仏教者による公益活動（運動）である。
- ❖ 政治的関与はあるが、 特定の政党への支持はない。
- ❖ 構造的暴力（組織・制度・方法）と文化的暴力（価値観・思想・信条・象徴）について分析と理解する。
政府と企業が与える社会への影響を認識する。
- ❖ 開発： こころと社会の目覚める（平和・安寧）

エンゲイジド・ブッディズム 基本原則

- ❖ 個人：自分の心を目覚める実践と養成する
- ❖ 人間関係：お互いに非暴力生活（身・口・意）するとコミュニティと団体作り
- 臨床仏教師の原則：苦しみに寄り添って傾聴
- ❖ 社会：構造的文化的分析の「智慧」、公益活動の「慈悲」に基づく生活する

アジア：終末期ケア

タイのエイズホスピス寺院
1992年創立



台湾の臨床仏教研究協会
1998年創立



歐米：終末期ケア

❖ 禅ホスピス活動（米国）

1987 -> 現在

❖ Being with Dying養成講座

米国：ジョーン・ハリファクス

1994 → 現在

❖ リグパのスピリチュアルケア

養成講座（米国とユーロパ：

ソウギヤルリンポシェ

1993 → 現在

